

新入試対策算国講習

夏のテーマはコレ!!

《算数:すべての受験につながる、PISA 型の算数の力をのぼす》

小学校の算数は、分数・小数の計算や割合などの単元ごとの演習にとどまることがあります。そのため、複数の単元を融合した問題にふれ、使いこなす経験が少ないことが、中学校や高校の数学で苦手意識をもつ生徒が増える原因になっています。

中学校以降の数学では、条件を整理する力や適する解を導き出す力が必要となります。この講習では、およそ5時間の集中学習でそれらの力を身につけていきます。さらに小5・6生は、中学入学以降でも生かせるレベルの高い問題までトライしていきます。

《国語:うすいオリジナルの問題に挑戦し、読解力を養う》

文章を正しく理解するのは、大人でも難しいことです。小学生にとっても、非常に高いハードルであることにはまちがいありません。

だからこそ、長い夏休みを利用して、何度も文章を読み返し、線を引き、大事なところを見抜き、それらを正しい日本語でまとめ直す問題にトライしていきます。すべての教科の土台となる読解力を今から身につけていきましょう。

算数 文章を読解し、条件を整理する



国語 読解力をつける



👉 中学入試から高校入試、大学入試まで高いレベルの教科学力が必要です。

群馬県立高校入試数学

群馬県立高校入試社会

東京大学 法学部 推薦入試課題

読者の発表によると、2019年の参議院議員選挙（選挙区）の投票率は48.90%であり、過去最低だった1995年参議院の44.52%に次ぐ低値でした。18歳と19歳を合わせた投票率は31.33%（抽出調査による推定値）であり、全体の投票率をさらに下回りました。参考のために、オーストラリアの連邦議会選挙における投票率の推移を図1に示します。これに対し、オーストラリアの連邦議会選挙は毎回90%を超える投票率（投票者/選挙人名簿登録者）となっています。この高い投票率を生む一つの要因は、その独特な選挙制度にあります。投票を法的な義務として強制する義務投票制（compulsory voting）がそれです。この制度の歴史は古く、1915年にタインズランド州の州議会選挙にはじめて導入され、1924年には連邦議会選挙に導入されました。以後、今日に至るまで高い投票率が維持されています。

現在、オーストラリアの義務投票制はほぼおなじようになっています。18歳以上のすべての国民は、2つの法的な義務を負います。まず第1に、選挙人名簿への登録が義務づけられています。日本とは異なり、居住する選挙区に選挙人であることを自ら届け出なければ投票できないこととなっています（2019年8月の連邦議会選挙における登録率は96.8%）。第2に、投票は選挙人の義務とされ、正当かつ十分な理由なくして連邦議会選挙の投票に行かなかった場合、20豪ドル（約1900円）の罰金が科されます。他方、前日投票の他、投票所に行かずに投票箱（秘密投票箱）に投票票を入れるという方法で投票することも認められています。

投票票など、選挙人が投じて、あなただけで評議していただくという

どの教科でも共通して、限られた時間の中で長い文章を読解したり資料を整理したりして答えを導く。

文章を読解し問題の要点を把握したうえで論理的に文章を記述する力が求められている。

小4~6年生
3日間
13,200円
(税込み)
※日程の詳細については
申込書をご覧ください。

